

# 若狭町 小中統廃合方針検討へ 来年度保護者ら交え委員会設置

若狭町は11日、町内計12の小中学校について来年度、児童数の減少や行財政改革などを理由に有識者らによる検討委員会を設置し、統廃合の方針を検討していく考えを示した。

集団規模が確保できなくなりつつある学校がある。今後地域や保護者の意見を総合的に考えて統廃合方針を検討する」と答えた。

## 【2面に本記】

同日開かれた12月定例会の一般質問で、森下裕町長らが藤本武士議員に答えた。

町はこれまで、定住促進には地域に学校があることが大きな魅力であるとして学校統廃合に否定的な考えを示していた。

藤本議員は「教育環境や行財政改革の面から見て統廃合は避けられないのではないかと指摘。森下町長は「一定の

し、来年度保護者や地域住民、各校の代表者、学

識経験者を交えた検討委員会を設置。学校の適切な配置について検討を進めたいとしている。児童生徒数の減少を理由に2015年4月に三方中岬分校が、16年4月には併設されていた岬小

が休校し、今年6月末に廃校となった。現在町内には小学校10校、中学校が2校ある。うち、明倫小の1、2年生を除く全学年と熊川小で複式学級になっている。

(成実宏一)

また、玉井喜廣教育長は1992年の町内小学生は約1100人、中学生は約700人だったが今年小学生約830人、中学生約430人と25年間で3割程度減少している現状を説明。今後25年間でさらに4割程度の減少が見込まれるとして「複式学級が常態化するなど一人一人の資質や能力を伸ばす学校の特質が生かされない状態とも言える」とした。現在事務局レベルで適正な学校配置について検討の準備をしていると